

横浜市本郷台駅前地域ケアプラザ及び横浜市本郷地区センター 指定管理者選定委員会（第2回） 会議録	
開催日時	令和3年1月26日（火） 午後2時から午後4時まで
開催場所	栄区役所新館4階8号会議室
出席者	豊田宗裕委員長、荒井文夫委員、伊藤元秀委員、岩崎博子委員、細田利明委員、本田桂子委員、宮崎良子委員、山上敏子委員（出席8人）
開催形態	公開、但し議題3、5及び4の委員の採点部分については非公開（傍聴者なし）
議題	<ol style="list-style-type: none"> 1 会議の公開・非公開について 2 選定方法の確認 3 応募資格等の確認及び財務状況の報告 4 面接審査 5 指定候補者の選定
決定事項	<ol style="list-style-type: none"> 1 選定方法の確認及び応募団体の面接審査におけるプレゼンテーション部分は公開とし、応募資格及び財務状況、応募団体の面接審査における委員の採点部分、指定候補者の選定については非公開とした。 2 横浜市福祉サービス協会・さかえ区民活動支援協会グループを指定候補者とし、社会福祉法人横浜長寿会・公益社団法人青年海外協力協会共同事業体を次点候補者とした。 3 委員会の選定結果について、栄区長に報告することとした。
審議内容	<ol style="list-style-type: none"> 1 会議の公開・非公開について 審査の公平性を担保するため、選定方法の確認及び応募団体の面接審査におけるプレゼンテーション部分は公開とし、応募資格及び財務状況、応募団体の面接審査における委員の採点部分、指定候補者の選定については非公開とした。 2 選定方法の確認 事務局より採点方法、最低基準点及び選定方法についての説明を行った。 3 応募資格の確認及び財務状況の報告について 事務局より、応募のあった2団体が当公募の欠格事項に該当しないことを報告した。 山上委員より、応募のあった2団体の財務状況についての報告があった。 4 応募団体の面接審査（※当日は、団体名を伏せて実施） 【横浜市福祉サービス協会・さかえ区民活動支援協会グループ】 （1）横浜市福祉サービス協会・さかえ区民活動支援協会グループによるプレゼンテーションが行われ、以下のような質疑応答があった。 （委員）地域において、認知症の方が増えているが、特に家庭内に引きこもってしまっている認知症の方々に対して、具体的にどのようなサポート、取り組みを行うことが出来るか。 （回答）地域ケアプラザの包括支援センターの職員が関わることになるが、まず、地域の見守り体制の強化についての取組を行っていくことを考えている。包括支援センターの職員が訪問し、地域ケアプラザの取組を説明し、徐々に地域の方との関係を作っていく。

また、地域の中で、少しずつ認知症への理解を深めていくような取り組みを行っていく。

地域ケアプラザの存在を知らない方もいるので、地域ケアプラザの存在を知っていただくように努めたい。

(委員) 地区センターの認知度が低いので、認知度をあげる取組についてどのように考えているか。

(回答) 広報よこはまを活用することを中心に、町内会の掲示板への掲示、ホームページ等を活用し、積極的な広報に努めていく。

(委員) 個人情報情報を外部に持ち出しが必要な場合と記載があるが、外部に持ち出すことは必要なのか。

(回答) 個人情報情報を外部に持ち出す機会として、お客様の個人情報が含まれているケアプランを持ち出すことがあげられる。

持ち出す書類については必ず最小限とし、何をどこに持っていくか持ち出し簿を整備し、管理を行う。

(委員) 現在、本郷地区センターを利用者が移転後も今まで通り活動が出来るのか？

(回答) 自団体が、当施設の管理運営を行うことが出来るのであれば、今まで利用していただいている団体に対して、引き続きご利用いただくように努めていきたい。

(委員) 地域ケアプラザについて、横浜市全体で何か所、区で何か所運営しているか。

(回答) 市で20か所、区で1か所運営している。

(委員) 横浜市で運営している施設で施設長の男女比率はどうなっているか。

(回答) 自団体が運営している施設では、地域ケアプラザは、20施設中、男女ともに10名。特別養護老人ホームの施設長は、女性1名、男性2名、介護事務所では女性が施設長であるケースが圧倒的に多い。

【社会福祉法人横浜長寿会・公益社団法人青年海外協力協会共同事業体】

(2) 社会福祉法人横浜長寿会・公益社団法人青年海外協力協会共同事業体によるプレゼンテーションが行われ、以下のような質疑応答があった。

(委員) 地域ケアプラザは原則無料、地区センターは有料になると思うが、そのあたりの区分けはどのように考えているか。

(回答) 実際に運営が始まった時に、誰が見ても納得できる基準を作っていきたい。

(委員) 施設長を配置するにあたって、どのように選出を行うのか。

(回答) 提案内容にある、「配慮範囲が広い人物」に記載のある内容を基準として、配置する予定である。

(委員) 利用料金の設定について、提案書に現状の陶芸室の金額設定に記載が無いが、なぜか。

(回答) 現状の地区センターの陶芸室の金額設定が不明であったため、記載をしていないが、提案としては、陶芸室と工芸室について、同様の単価で考えている。

(委員) 貴団体は、全国各地で活動されている旨の記載があるが、輪島や島根、長野などの地域でどのような交流活動を行っているか。

(回答) 海外からのお客様を各拠点に招くことや、学習プログラムの中で交流を行うこ

と、人材交流等を行うこと等、広域的に活動している。

(委員) 輪島や広島等の再生事業等を行っている事業者が、施設の管理業務を行うことができるのか。また、平成30年度の収支が赤字となっているが、その理由は何か。

(回答) 自団体の福祉の考え方は、年代、性別等、誰もが分け隔てなく、共に生きるということをコンセプトに考えている。提案資料に、大都市の限界集落について記載しているが、栄区においてもそのような状況がみられる。それを解決していくために、全国で6箇所実施している地方創生事業の経験が当施設の運営の中で活かせると考えている。

また、栄区内で高齢化を迎えるにあたって、当施設の運営を通じて、自助・公助等、地域の方がコミュニティをつくる担い手となり、安心して暮らせる社会をつくるような挑戦をしていきたい。

収支については、年度毎に事業規模に変動がある。当該年度は、先行投資をしたこと等が理由にあげられる。

5 指定候補者の選定

プレゼンテーション及び面接審査を受けて評価を行い、各委員の評価結果を集計する。

団体名	評点/満点
横浜市福祉サービス協会・さかえ区民活動支援協会グループ	2,402 点/2,920 点
社会福祉法人横浜長寿会・公益社団法人青年海外協力協会共同事業体	2,132 点/2,920 点

(審査講評)

(1) 指定候補者 (横浜市福祉サービス協会・さかえ区民活動支援協会グループ)

当団体は、地区センター、地域ケアプラザの両施設の施設運営に精通しており、安定した運営が出来ると考える。区行政との連携、区内施設との連携、地域団体との連携についても具体的な提案があり、新しい施設の運営を円滑に行うことが期待出来る。

(2) 次点候補者 (社会福祉法人横浜長寿会・公益社団法人青年海外協力協会共同事業体)

当団体は、海外での事業活動や、地方創生事業に長けており、今までにはない新しい形の施設運営が期待出来る。地域ケアプラザの運営について、具体的な事業提案があれば、更に良い提案になったと考える。

採点の結果、2団体とも最低基準点を超過していることを確認した。

横浜市福祉サービス協会・さかえ区民活動支援協会グループを指定候補者とし、社会福祉法人横浜長寿会・公益社団法人青年海外協力協会共同事業体を次点候補者とする事で決定した。

また、選定結果については、栄区長に報告することとした。

配付資料

- 1 選定の流れ
- 2 評価・採点について
- 3 選定スケジュール